

2004年秋季講演会報告

JSPS 北大 LOC

去る2004年10月、北海道札幌にて秋季講演会が行われた。今回は大学以外の会場としては2002年水沢以来、そして市民向け科学施設としてはおそらく初となる札幌市青少年科学館(以下科学館)にて3日間の講演会が開催された。

2004年10月14日から16日にかけて行われた今回の秋季講演会は北海道大学所属の会員により組織された実行委員会(北大LOC)によって運営された。今回の会場選定やその利用にあたっては、2003年のIUGG札幌開催を機に交流を得ることのできた札幌国際プラザに相談にのっていただいた。科学館には事前打ち合わせから最終日の撤収にいたるまで全面的に協力していただいた。会議専用施設ではないために、やや不便に

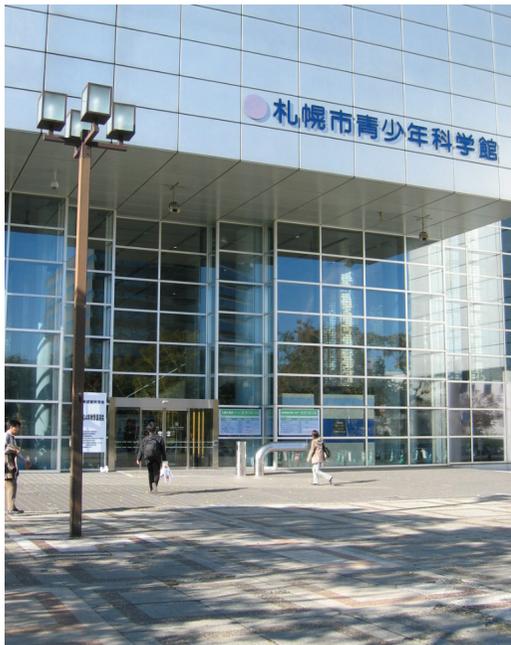


図1：会場の札幌市青少年科学館

思えるところもあったかもしれないが、自然界を理解すること、そしてそれを共有することを喜びとする者が集う場としては、なかなか得がたい場所だったのではないだろうか。

初日のLOCの戸惑いは当初の予想よりも参加者数が増えたと感じたことであった。そのためあわてて講演会場の椅子を増やすなどした。2日目、3日目も出席率は非常に高く、最終的な参加者数は181名を数えた。1993年以降の正確な記録は把握していないが、参加者数が多かったと感じられた昨年よりも50名近く伸びており、おそらく過去最高であったと思われる。発表件数も口頭71件、ポスター56件を数え、LOCでは議論の末、口頭発表時間を当初の想定から若干短縮することを決断せざるを得なかった。この盛況の理由には惑星科学に関係する人口が着実に増えつつあることが第一に挙げられよう。秋の北海道という魅力も多少の後押しをしたのかも知れない。

例年どおり議論も活発で、はじめて学会の様子を覗いたという方から「すごく活気のある学会ですね」と

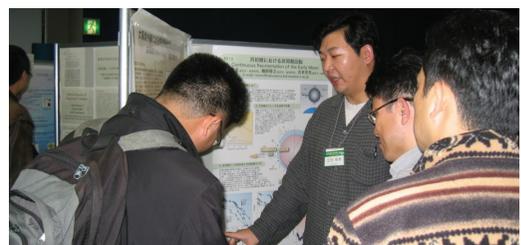


図2：上：講演会場の様子。中央の柱の向こう側の座席も埋まった。下：ポスターセッションを楽しむ人々。

の感想も聞かれた。初日午後今回で二度目となる優秀発表賞セッションを行った。力作が並んだが、最終的には三浦均君と倉橋映里香さんが今年度の栄冠を射止め、2日目の総会時に受賞者の発表と水谷仁会長から表彰が行われた。



図3：左：水谷会長から2004年度最優秀発表賞の表彰を受ける倉橋さん。中央は司会の井田茂氏。右：受賞の喜びを語る三浦君

2日目夜にはアサヒビール園にて120名余りの参加者を集めて懇親会が行われた。今年は飲み・食べ放題であったため前半は飲食に集中する展開であったが、一通り満腹したのちはいつもの有志（好き者？）による即興トークショーが行われ、「惑星科学会の懇親会は面白いらしいぞ」という地球・惑星・天文関連の学生たちの間に流れている噂に違わない盛り上がりとなった。

科学館での開催ということから、北大 LOC では市民を対象とする催しもいくつか企画した。最終日には小久保英一郎氏と筆者が一般市民を対象とする講演会を行った。2003年度最優秀研究者賞受賞者である小久保氏は自ら開発したCGアニメーションを駆使して惑星集積についての最新の理解を紹介し、市民だけでなく共に参加していた惑星科学会会員もうならせた。北大 LOC を代表した筆者の講演も好評だったようである。

宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究本部からは展示用にセレーネ、はやぶさ、Planet-C の三機の模型を無償で貸していただいただけでなく、上質紙に美しく印刷された惑星と探査機のペーパークラフトも提供い

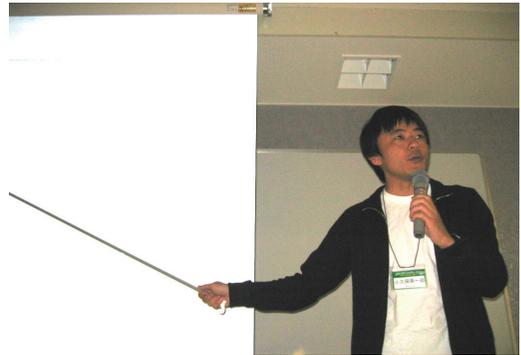


図4：上：市民向け講演を行う小久保氏（2003年度最優秀研究者賞受賞講演）。下：市民向け講演に集まった人々。

ただいた。模型の隣で配布したペーパークラフトは人気が高く、短時間のうちに用意した数百枚が市民の手に渡った。また国立天文台の協力により宇宙の姿や惑星形成過程を立体視ビデオで上映するモバイル4次元シアターの展示と上映を行った。小久保氏と武田隆顕氏には一連の搬送手続きとセッティングだけでなく実演解説も担当していただいた。これも市民だけでなく会員や科学館職員にもたいへん好評であった。

謝辞：今回の秋季講演会は文中にも一部記しましたように、たいへん多くの方々と機関・組織のご協力によって成功裏に終えることができました。札幌市からは本講演会の開催にあたり助成金をいただきました。またパーキンエルマー・ジャパン、アドキャップバキュームテクノロジー、パスカルの3社からも協賛金をご提供いただきました。この場を借りて深く御礼申し上げます。

文責 倉本 圭

(北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻)